

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174501153		
法人名	有限会社 いなすず		
事業所名	グループホーム いなすず		
所在地	埼玉県熊谷市道ヶ谷戸238		
自己評価作成日	平成23年3月5日	評価結果市町村受理日	平成23年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成23年4月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑に囲まれ、遠くには山々が眺められるという、自然に恵まれた環境の中で生活しています。天気の良い日は散歩に出かけ、農作業をされている方々とのふれあいも一つの楽しみになっています。住み慣れた場所での生活を大切に、近くのスーパーへ買い物に出かけたり、また行き慣れた食堂やレストランでの外食も楽しんでいます。職員が笑顔で接し、笑いがあり、会話のある明るいホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四方に田畑が広がり、日光連山や麦畑が眺められる場所に平屋の事業所が建っている。敷地が広く、満開の桜でお花見が出来る環境である。散歩に出掛け、農作業をしている方から野菜を頂く等、顔馴染みになっている。「のんきに・ようきに・ほがらかに」の理念を掲げ、職員はにこやかに対応し、入居者の笑顔が見られる事に喜びを感じ、その方の立場に立って考えるようになり、働き甲斐を感じている。二人の管理者は、職員が働きやすく、力を発揮出来るように、又、地域の方が気軽に立ち寄って下さるような、地域密着サービスの事業所を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	三つの理念に基づき、利用者様の立場、ペースに合わせ、あせらずゆっくりとした生活の中から笑顔が引き出せるよう対応している。	理念「のんきに・ようきに・ほがらかに」を意識づける為、朝のミーティングで確認している。焦らず、呑気に、しかし、気配りをしながら提供するケアサービスの拠り所としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の小学校とイベントと等で交流を持ち、また地域の方がボランティアに参加してくださっている。	近隣に親しまれ、地域の方が声を掛けてくれる。季節の野菜の差入れがあり、毎週話し相手に来る方もいる。夏休みに体験学習で来た子供達と、運動会に招待された小学校で再会する等、異世代の交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々と交流を図ったり、見学や電話での相談を随時受け入れしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際に状況を報告したり、評価について報告、話し合いを行い、意見を求めている。	包括支援センター職員、市議、民生委員の方の出席を得て、地域に開放された事業所を目指し、実情や行事内容を報告し、意見をもらえるよう取り組んでいる。今年度は会議の回数を増やす事を目標にしている。	地域の理解と支援を得る為、会議の出席メンバーに交流のある小学校の先生やボランティア、老人会長等に加わってもらい、積極的に関わってもらえるような工夫が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	御家族からの相談などで分からないこと、ホームとしてできることがあるかなど、広域・地域包括の方に伺うなどしている。	市町村担当者は、運営推進会議には出席していないが、長寿生きがい課に組みの実情を伝え、パンフレットを渡し、入居者の紹介も頂いている。今後も連携を図り、更に協力関係を築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ玄関の施錠を行っている。	「身体拘束はしない」をモットーに、日々のケアに取り組んでいる。車椅子の方が、自分の力で上手に滑り落ちるように床に座ったり、工夫しながらベッドから降りる等、職員が注意深く見守り、支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が常に「してはいけない」と心がけ、介護にあたっている。テレビや新聞などで気になることは話題に上げ、話し合ったり、ファイルに閉じて、閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会に参加したり、地域包括の担当者と連絡を取り合うなどしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人様やご家族様に何度でも見学に来ていただき、また話し合いも十分な時間をかけ、納得した上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、面会に来られた時や電話をいただいた時にお話を伺うよう心がけている。	日頃のコミュニケーションから信頼関係を築き、要望を聞き、家族からは面会時に職員が積極的に話し掛けて聞きとっている。介護記録や廊下に掲示している近況写真等を見て関心を持ってもらえるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を行っている。また、朝礼の時や休憩時に自由に話ができる様心がけている。	職員と管理者は話易い関係で、現場の気づきは常に提案され、月一度の職員会議は全員が参加し、勤務体制や研修、親睦会の内容等について話合われている。	代表者、管理者は、共に職員の要望や意見を聞くようにしているが、把握しきれない可能性もある為、積極的に問いかけたり、聞き出して、運営に取入れよう努める事が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の苦情や意見を積極的に聞くようにし、職員が楽しく働けるよう、改善できるところは改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を提供し、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターや地域の病院を通して、他のグループホーム同士での勉強会や情報交換を行っている。今後は運営推進会議にも声をかけて行く予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は不安、戸惑いが見受けられます。職員からの声掛けを行い、少しずつホームの生活に慣れていただけるよう心配りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント表に記入する際、ご家族やご本人様から多方面におけるお話を伺うようにしている。毎月ご家族に近況報告書を提出し、また、必要な場合は電話などでの連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様にはホームでの生活に慣れていただけるようお手伝いして行き、対応が難しくなられてこられた場合は相談の上他の施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や配膳前の準備を通して、ご利用者様と職員が共有する時間を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとの時ご家族にも声掛けし、参加していただくことで共有する時間を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外食や買い物を通じて馴染みの場所に出かけるようにしている。またお彼岸などはご家族とお墓参りにも行かれます。	地域で親しまれる聖天様のお祭りで懐かしい聖天寿司を食べたり、要望があればお墓にもお連れし、一緒に草取りをする事もある。職員の見守りの中で編み物や雑巾縫い等の手仕事が続いている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や人間関係などからもテーブル席の配置や時には居室の移動なども考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も施設や病院に面会に行ったり、ご家族に電話を入れ様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスを基にご本人様の希望に添うように会議で意見を出し合い、必要に応じた対応をしている。また意思疎通の難しい方は行動や表情から検討している。	生活歴に加え、担当職員が日々の気づきを伝え、それに対して違う意見も取入れ、意向の把握に努めている。入居年月が長い方は、日誌を家族が見て、本人本位の暮らしで笑顔が戻っている等喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報やご本人様からの会話を通し、病院、理容、日常生活の過ごし方の情報を知り、大きな環境の変化が無く安心して過ごしていただける様お手伝いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の対話や起床時の様子、バイタルチェックなどを行い、心身の状態を把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の日常生活の中から、ご本人の意向を把握し、また、ご家族が面会に来られ時に、お話を伺うことで、希望に沿った計画を作成している。また、必要に応じて主治医と相談、意見をうかがっている。	一人ひとりの生活記録に夜勤者は赤ペンで記録し、日勤者と情報を共有し、又、担当職員の意見を基に全員で評価を含めた意見交換をし、かかりつけ医の意見も聞き、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に時間系列で日々の様子を具体的に記入している。特別なことに関しては特記事項欄に記入することで、わかりやすくし、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院受診介助や買い物など、ご利用者様とご家族の状況や希望に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の行事などに参加したり、定期的に小学生の訪問がある。地元の主婦の方が週一回ボランティアに来てくださり、一緒に体操や散歩に参加して下さる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に通院したいという気持ちを大切にし、継続している。また、通院が難しい方に対しては、往診をお願いしている。	かかりつけ医の受診は、家族の協力を得ながら継続し、受診科目の多い方は職員が付添う場合もある。通院困難な方は毎月の往診もあり、リハビリは病院からの送迎で実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者様に変化が見られた場合、看護師に診ていただき、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時面会をしたり、担当の看護師からのお話を伺い、常に連絡が取れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族との話し合いや状況に応じて、ご希望に沿うようにしている。	数年前に看取りと最後のお別れまでを経験している。事業所の指針は出来ていないが、今後は本人、家族の要望があれば対応出来るよう事業所の現状を考慮し、関係者と連携を取り、支援に取組みたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、連絡先等を含めすぐに対応できるように文章化してある個人ファイルに大きく見やすいように記してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の方が来てくださり、避難訓練をしている。スプリンクラーの設置も決定している。	年2回消防署の指導で訓練を行い、消火器の使い方やシートで人を運ぶ訓練を実施している。地元消防団の協力もあり、役割の確認が大切な事を学んでいる。水・缶詰・毛布の備蓄品もある。スプリンクラーは設置済みとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	絶えずお声掛けを心がけ、利用者一人一人との信頼関係を構築していくことを心がけ、対応している。	プライバシーを損ねない援助の仕方や言葉掛けを工夫し、聴覚障害の方には、ジェスチャーを交えて対応し、浴室の脱衣所には衝立を置き、羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様のお話や意見を聞き、希望に添える様、また、納得していただけるよう、わかりやすくお話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味ややりたいことを伺い、その中でご利用者様に合った時間の過ごし方をさせていただけるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立できる利用者には、その利用者の好みの洋服、アクセサリーを身につけてもらっている。また、ご自分では困難な方に対しては、職員がお声がけしながらお鉄出しをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者と一緒に配膳、片付けをし、3度の食事は必ず利用者と食事をするようにしている。	明るい食堂で職員とテーブルを囲み、地域の野菜を食材にした料理が並んでいる。配下膳やテーブル拭き等出来る事を手伝い、時には切干大根やジャガイモの皮むき等、エプロン姿の元主婦が腕前を發揮する事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調を考え、その状況に合った食事提供を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声かけをし、その方々に合った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様の排泄パターンを把握し、声かけにてトイレ誘導を行っている。	個別の排泄記録を見ながらトイレ誘導し、日中はおむつを使用しない支援をしている。入居後に排泄パターンを活かした支援をする事で失禁の回数が減り、居室の匂いが無くなり改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分取って頂けるよう、お茶などのお替わりを促し、朝食時牛乳を提供している。また、排泄の記録をとり、チェックしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、ご利用者様の希望やタイミングに合わせるようにし、また、体調に気を配り、無理強いせず、楽しい入浴ができるよう配慮している。	A棟は月水金、B棟は火木土と入浴日を決め、大きい浴槽と個浴を選べるようにしている。車椅子の方は足湯をしながらシャワー浴で身体を温め、湯上りにコラーゲン入りのローションを使い、肌の乾燥を防いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様が不安な気持ちにならないよう、ナースコールを設置し、いつでも対応できることを伝えている。また、昼食後、休憩時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに処方箋を入れており、職員全員が目を通せるようになっている。そのほかに一覧表が作成されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活や会話の中から、趣味や興味のあるものを知り、ご利用者様それぞれの方に合った楽しみができる様、創意工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お誕生月の方の希望を伺い、外食の場を決め、出かけたり、月一度の買い物デーにてお好きな物を購入していただく機会を設けている。時には希望にて、お墓参りに行かれることもある。	散歩や外食等、戸外で気分転換出来るようにし、誕生日にはその方の好みを聞き、皆で同じメニューを食べてお祝いしている。深谷、太田、熊谷へ買物やお茶飲みに出掛け、レジの清算を自分でやっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金の管理をしているが、自立されているご利用者様にはご自分で管理していただいている。買い物デーでお買い物した時は、職員が寄り添い、各自ご自分で支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話を置き、自由にご利用できるようになっており、ご家族からの電話も取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの談話室には、ご利用者様が作った作品や絵、また、職員の手作りのものが飾られている。畑では、野菜やお花を植え、皆さんで楽しむことができるようになっている。	広々としたリビングは明るく、敷地内の桜を眺められ、五月の節句人形が飾られる等、季節感あふれる空間で、入居者の力作が壁面に掛けられ、一緒に作った職員の趣味や工夫も活かされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にはソファを置き、のんびりとテレビをご覧になり、庭にはベンチとテーブルが置かれ、天気の良い日はくつろぐ空間となっている。畳のスペースもあり、休むことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される時に、ご利用者様の使い慣れた物を持ってきていただき、自宅での生活の雰囲気を保つようになっている。	居室に洗面台とトイレが備え付けられ、自由に使用出来る。ベッドに読みかけの小説が有ったり、思い出のこけし人形が飾られる等、それぞれが落ち着いて暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行がスムーズにできる様、廊下には手すりが設置され、談話室では自立歩行ができる様、ソファやテーブルの配置を工夫し、安全性を考慮している。		